

# 林原美術館NEWS

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS

vol.20

平成22年 秋号

## 林原美術館所蔵の国宝と重要文化財 —「国民文化祭おかやま二〇一〇」にむけて—

(財)林原美術館館長 熊倉功夫

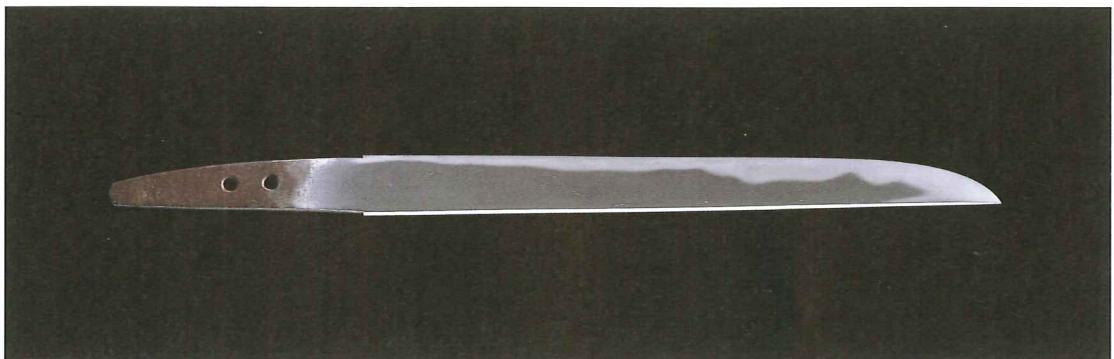
いよいよ岡山で、十月三十日より十一月七日まで国民文化祭が開催されます。国をあげての文化イベントが岡山で開かれるのですから、日頃、岡山の文化振興の一端を担っている林原美術館としても、ここは一肌脱いで協力したいと思います。

館としてできる最大の貢献は、館の所蔵する最高の美術品、工芸品を県内外の方がたにご覧いただくことでしょう。そこで「林原美術館所蔵の国宝と重要文化財」を企画しました。

林原美術館には国宝二点(寄託作品を加えると国宝は三点)、重要文化財二十六点が所蔵されています。そのうち保存上どうしても展示できないものを除いて、できる限り全点に近いかたちで国の指定文化財を一堂に公開したいと考えています。こういう展示は過去にもなく、近い将来もまず実現不可能ではないかと思います。

ただお宝を展示しますので見にきて下さいと申しましても、皆さんお忙しくてなかなか御来館いただけません。またこの時期は、岡山中の美術館、博物館が一世一代の特別展を企画していらっしゃるでしょうから、その中で、わが館を選んでいただくためには従来にない展示を考える必要があります。

林原美術館は決して大きな美術館ではありません。しかし国指定の文化財の数は他にくらべて抜きんでています。何故これほどの収藏品があるのか。国宝、あるいは重要文化財に、何故、この作品が指定されているのか。一点一点その理由づけが明らかになるような展示がしたいのです。こうした文化財を鑑賞することが、日本の伝統文化とは何か、さらにそれを継承してゆくにはどうしたらよいのか、といったことを考える機会となれば幸いです。



特別出品 短刀 無銘 伝九鬼正宗

## 企画展

## 企画展「画人大名 池田継政」

平成22年12月1日(水)～23年1月16日(日)



池田継政画像(延享三年)

第三代岡山藩主の池田継政（一七〇二～一七七六）の特色は、歴代の大名の肖像画を描いたように、すぐれた絵の才能を持つていたことです。正徳四年（一七二四）から三十八年間にわたって岡山藩政を運営し、儒学や仏教、古典、和歌などに通じた教養豊かな人物です。

継政は、初代岡山藩主で祖父にあたる池田光政（一六〇九～一六八三）の画像をいくつも描いています。光政といえば必ず思い浮かべる、ドングリ眼でアバタ顔の光政の面貌は、実は継政の夢に現れた光政の姿を描いたもので、彼の創作物なのです。光政以外にも、継政は自らの系譜につながる清和源氏の祖の貞純親王をはじめとし、源経基、頼光、頼政、池田恒利、恒興、輝政など多くの肖像画を制作しました。これら歴代の系譜と肖像画を一つにまとめたものが、池田家伝来の「縄武像」で、後の藩主によって幕末まで描き継がれています。このように継政は、祖先歴代の肖像画を積極的に制作することで、池田家の歴史を新しく

作り上げた藩主といえるでしょう。

本展では、これらの肖像画をはじめ、父綱政が継政誕生を祝つて継政実母の栄光院に与えた和歌、継政が鳩杖、継政が嫡男宗政の婚礼を祝して詠んだ和歌などの継政の榮光院の七十歳を賀して贈った人形と女子の遊びがつながって、中ごろになると、三月に雛の祭りが行われるようになります。この節句の行事と子供の成長を願う天児などの人形が結びつくようになります。室町時代の人形と女子の遊びがつながって、祭りが行われるようになります。そして身代りとなつて災いをした。そして身代りとなつて災いを流す流し雛から飾り雛へと変わり、江戸時代には男女一対の雛人形を飾るようになり、雛祭りの普及とともにそれに附属する雛道具も豪華になりました。

本展では林原美術館所蔵の備前池田家に伝わる雛の道具を

## 企画展

## 企画展「雛の道具」

平成23年2月1日(火)～3月21日(月)



梅若松蒔絵雛道具の内 厨子棚飾

女子の健やかな成長を祈る雛の祭りは、日本古来から行われてきました。古くは祓の道具である人形（ひとがた）に自分の穢れや罪を託して川や海に流す風習がありました。平安時代には、赤子に病気や災いが降りかかるないようにとの願いを込めて、その身代わりとして枕元に人の形をした天児や張り子の犬などの人形を置きました。また、三月三日など、季節の変わり目に邪氣をはらう節句（中国の風習）が年中行事として行われていました。

この節句の行事と子供の成長を願う天児などの人形が結びつくようになります。室町時代の中ごろになると、三月に雛の人形と女子の遊びがつながって、祭りが行われるようになります。そして身代りとなつて災いをした。そして身代りとなつて災いを流す流し雛から飾り雛へと変わり、江戸時代には男女一対の雛人形を飾るようになり、雛祭りの普及とともにそれに附属する雛道具も豪華になりました。

女の子の健やかな成長と幸せを祈りつゝ本展来会を御覧ください幸いです。

# イベントに参加しての感想

本年度も様々なイベントを企画し、皆様にご参加いただいています。上半期のイベントに参加いたしました皆様から、様々な感想をご寄稿いただきました。これからも楽しい企画を計画中です。

## 【桜見の会】に参加して

森末治子

今年は五月に入つてから風爽やかで、桜の花は幾分長く楽しめた春でした。



恒例の「桜見の会」が四月三日(土)に開催され、日常から暫く離れた心地良い時を過ごさせて頂きました。

裏千家の立札によるお点前で薄茶を頂き、卒寿を迎えた数田先生の声を身近に、道具組みを拝見致しました。

この、春真ただ中で熊倉館長のいろは歌の

## 【ワークショップ 子供から大人まで楽しめる陶芸教室】

篠原良眞

七月末、ワークショップ陶芸教室に参加させて頂きました。私は昨年に続き二回目でしたが、自分の作品が出来上った時の歓び、これは何ものにも変えられません。

備前焼の重鎮藤原敬介先生の楽しいお話に始まり御一家皆様方の指導の許、小学生を交えた二十名の生徒が貴重な一キロの土と共に、我を忘れた無心のひと時でした。イメージ通りとはいきませんが何とか形となつた時の



## 【京都茶室巡りの旅】に参加して

元佐龍史

今回の茶室巡りの旅は以前からぜひ参加したいと願っていましたので、大変楽しみにしていました。

まずは待庵をそれぞれのグループに分かれて見学し、熊倉館長による茶室の詳細に渡る解説や「一畳敷の座に至る利休さんの精神等を拝聴しました。以前に犬山の「如庵」を一人でパンフレット片手に見学したときとは同じ国宝茶室の見学でも感慨が格別なものがあり、今回はより深く利休の

侘びの心に近づけたようと思えました。それから一般には非公開のため写真での忘筌席しか知らなかつた小堀遠州の孤篷庵を拝見した後に、同じ境内にある瑞峯院を拝観し、その中の平安待庵へ入れていただきました。手前畳に座られた館長の次の間一

この待庵の

「一畳敷の座」を世に問う利休と天下人を目指そうと決意した秀吉との蜜月時代への幕開けの場——そんな歴史の一ページである場に立つことができたという幸福に酔つた、楽しい一日でした。



## 【「原典で聴く平家物語の夕べ】に参加して

佐藤佳世

平家物語絵巻  
その他の展示  
の中祇園精舎  
の鐘の声」と  
琵琶の音により  
原典で聴く平家  
物語の夕べ」は  
始まつた。響き  
は身体の中に  
沁み込むよう  
あつた。



続いて琵琶・鼓についてのお話は「形」しか見ていなかつたという反省と共に日本の歴史の奥深さと重みを感じる思いだつた。「平家物語絵巻」は単に料紙の上に書かれたのを読む本ではない。人の技・心を込めて語られた文学作品なのだ。それ故に聞く人の心にせまつたのではないだろうか。

「耳なし芳一」は子供心に残つてゐる。今、機器の中に埋もれている私共、大きな自然というか、宇宙というか、大きな中に心放たれた思いの貴重な一夕であつた。

# 今年度後半のイベント

今秋以降も、講演会・お茶会・ワークショップと多くのイベントを開催いたします。

## 文化ゾーンを巡る旅

### ③美術館巡り

丹波焼の創成期から江戸時代末期までの約七百年間に作られた代表的な丹波焼を展示する丹波古陶館、また中世から近世にかけての能面、装束、楽器などの貴重な品々を所蔵する能楽資料館、全国有数の丹波焼および兵庫県内の陶磁器を所蔵する兵庫陶芸美術館などを巡ります。

日時 平成22年10月15日(金) 定員に達しました。

定員 40名(要予約)  
参加費 友の会会員 7,000円  
一般 7,500円

## 美術館講座

### ②林原美術館講座

※日付が変更になりました。

日時 平成22年12月19日(日)  
13時30分～15時  
演題 「桂離宮と修学院離宮について」  
講師 林原美術館館長 熊倉功夫  
会場 岡山県立図書館 多目的ホール  
参加費 友の会会員 1,000円  
一般 1,200円  
定員 100名(要予約)

### ②ワークショップ

#### ③水引結び教室「水引にふれる」

日本だけの文化である水引にはさまざまな決まり事、歴史、用い方があります。今回はその水引について、平沢先生のお話を聞きながら、基本的な結び方、折り方を学び、お祝い事にちなんだ品を製作していただきます。

## 編集後記

国民文化祭がいよいよ！と思いながらあつといつ間に駆けぬけた上半期ですが、下半期も企画展・イベントなど用意して皆様のご来館をお待ちしております。秋から冬にかけて岡山の文化ゾーンを散策するのも良い季節ですので、是非おかげください！

上半期イベントの感想を掲載しております。「ご寄稿くださいました皆様ありがとうございました。」

(杉村・新井)



## 「友の会」募集のご案内

●会員の種類・年会費
個人会員 1年 3,000円(新規) 法人会員 3年 2,700円(入会継続)
3年会員 平成22年4月1日～平成23年3月31日 3年会員 平成22年4月1日～平成25年3月31日 7,000円(新規) 70,000円(入会継続)
3年 70,000円

〒700-0823 岡山市北区丸の内二一七一五  
財團法人 林原美術館

TEL 0八六一-二二三一-一七三三  
FAX 0八六一-二二六一-三〇八九  
参加費 友の会会員 1,500円  
一般 1,800円

日時 平成22年11月20日(土)・21日(日)  
定員 各80名(要予約)  
参加費 友の会会員 1,500円  
一般 1,800円